



盛岡市プレスリリース

～ひと・まち・未来が輝き 世界につながるまち盛岡～

令和6年8月9日

市長公室 企画調整課
盛岡城復元調査推進室

市政記者クラブ加盟社 各位

史資料調査で発見された 「広小路屋敷普請関係資料」を初公開します

盛岡城跡の歴史的建造物復元に向けた取組により、平民宰相 原敬の祖父 原直紀が総責任者として普請した盛岡藩屋敷の「広小路屋敷普請関係資料」が発見されました。

もりおか歴史文化館第42回企画展「城の跡—残された盛岡城関連資料—」において、「広小路屋敷絵図」及び「広小路屋敷表門出番所等外観図」を初公開いたします。

記

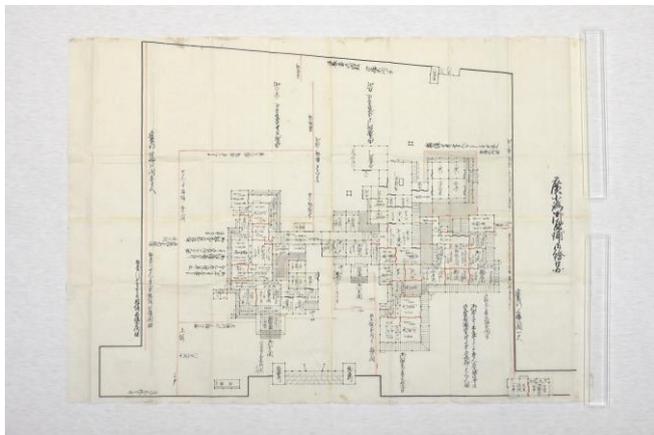
【日時】 令和6年8月10日（土）から令和6年10月27日（日）まで
午前9時から午後7時まで

【場所】 もりおか歴史文化館 2階企画展示室（盛岡市内丸1番50号）

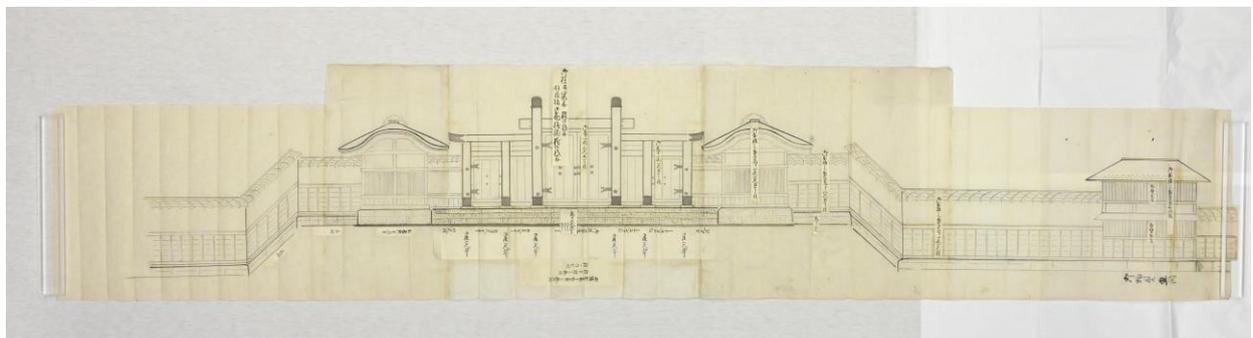
【その他】 企画展「城の跡—残された盛岡城関連資料—」については別紙チラシ及び
下記ホームページを御覧ください。

<https://www.morireki.jp/plan/5214/>

【初公開資料】 ※概要は別紙説明資料参照



「広小路屋敷絵図」



「広小路屋敷表門出番所等外観図」

*いずれも個人蔵

【問い合わせ先】

盛岡市 市長公室 企画調整課
盛岡城復元調査推進室 花井(はない)
TEL : 019-613-7956

「広小路屋敷普請関係資料」について

1 原家に伝えられた原恭家文書

原恭家文書とは平民宰相 原敬の兄、恭（ゆたか、9代）家に伝えられてきた古文書群の総称である。内容は江戸時代前期から明治期にかけての原家の系譜、由緒書、知行宛行状、各当主の書簡等で、その多くが直記芳隆（よしたか、7代 *恭、敬の祖父）に係る資料である。その中に広小路屋敷普請関係資料が含まれ、今回の資料発見に至った。

2 広小路屋敷（御殿）

所在地は現在の岩手県庁・県議会敷地内にあたり、藩主の世子（せいし、世継ぎ）の住居として造営された。盛岡藩12代藩主南部利済（とただ）が文政11年（1828）10月、家老檜山主膳の屋敷を御用地とし、普請が始まった。原直記芳隆が総責任者（普請懸り）となり、同年11月頃着手し（一説には文政12年5月）、文政13年（1830）9月上棟、同年10月完成。利済三男 利剛（としひさ、14代藩主）や家族が居住した。天保7（1836）年8月、広小路屋敷から広小路御殿と改称。安政5年（1858）4月、利済四男 南部出羽（謹詳、のりあき）が居住し、出羽殿屋敷と呼ばれた。維新後、明治4年（1871）11月、盛岡城二ノ丸に置かれていた盛岡県庁の機能を旧広小路御殿に移し、それ以後、明治36年（1903）に岩手県庁舎（昭和37年解体）が完成するまで、改変されながら使用された。

3 「広小路屋敷普請関係資料」

(1) 「広小路屋敷絵図」 1点 【写真1】

文政11・12年（1828・1829） 折図 一部朱書き 縦54.3cm×横77.5cm

広小路屋敷の表通（向かって左）と奥通（同右）の建物間取図で、各部屋の名称、規模や内装のほか、敷地の規模も記される。表通と奥通の建物はそれぞれ独立し、一部が2階廊下で接続する。屋敷南の正面には両脇に出番所が付く表門があり、南東隅には二階建の物見、北東には出番所を伴う裏門が配置される。

(2) 「広小路屋敷表門出番所等外観図」 1点 【写真2】

文政11・12年（1828・1829） 縦33.0cm×横166.5cm（ともに最大値）

広小路屋敷南の表門、出番所、物見建物、土塀を描いた外観図である。表門は冠木門で両脇に小門が付く。表門の両脇には唐破風屋根と連格子窓の出番所があり、東西に土塀が

続く。土塀東端には二階建の物見があり、屋根は板葺、各階には白塗籠格子出窓を設ける。付箋または書入れで各箇所寸法が記載され、表門の幅は3丈6尺1寸（約10.93m）、冠木上までの高さは1丈3尺5寸程（約4.09m）である。

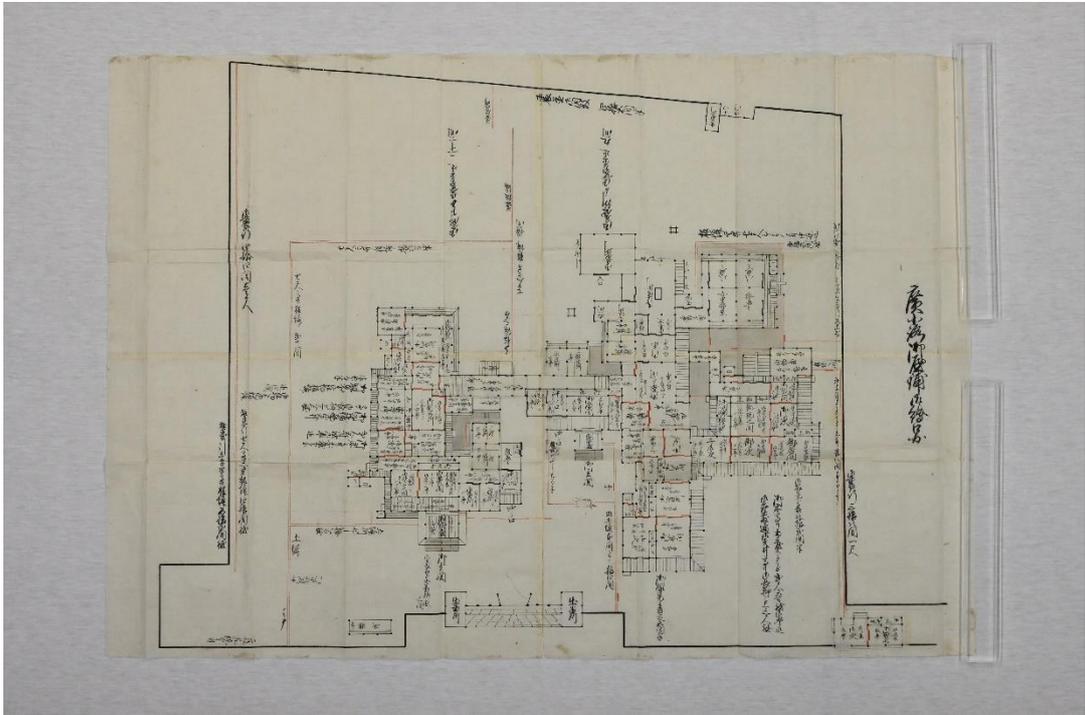


写真1 「広小路屋敷絵図」

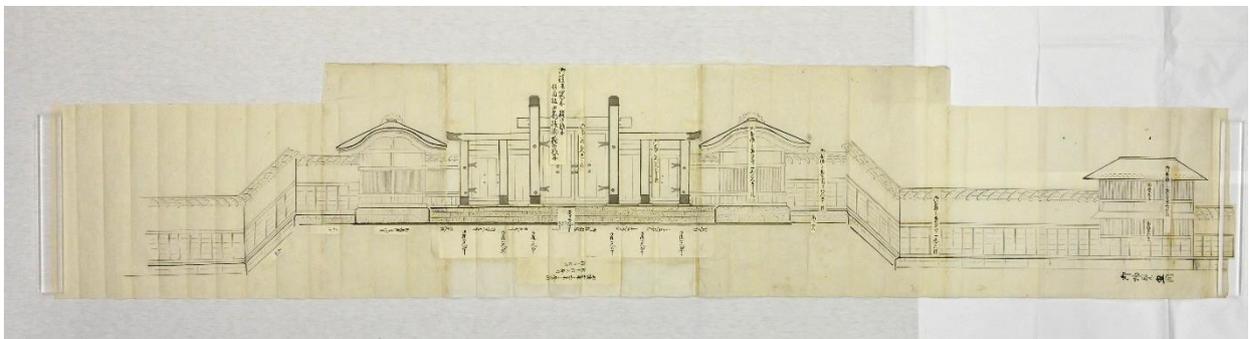


写真2-1 「広小路屋敷表門出番所等外観図」

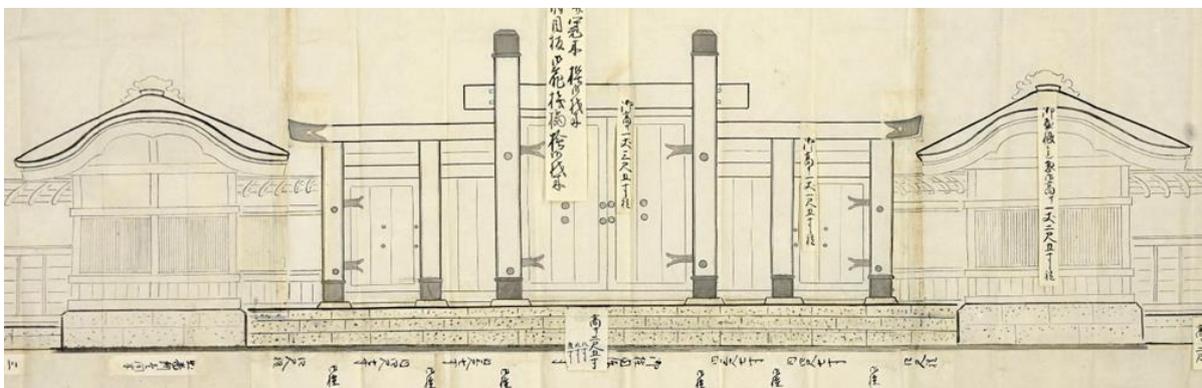


写真2-2 表門及び出番所部分拡大

いずれも個人蔵

